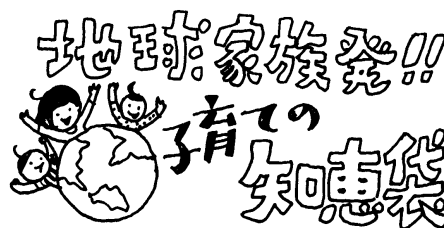


保育園での異文化体験エピソード



その23 セブ島の習慣?



イラスト・うつろあきこ

昨 年の夏、保育園の勧めでフィリピンのセブ島へ研修に行ってきました。島には高級リゾート施設が多く、海も本当にきれいでしたが、私が行ったところはダウンタウンの近くで、仕事のない人たちが昼間から溢れ、ゴミが散乱していました。

聞くと、ゴミ箱に捨てる習慣がないということで、日本のボランティアたちが習慣化しようと努力していましたが、現地の人には、ゴミはいつか自然に帰るという思いがあり、平気で道端へ捨てていました。

ゴミは、ゴミ山（ダンプサイト）へどんどん集められ、そこには、利用できそうな資源を回収するたくさんの家族が住んでいました。ここに人が住んでいること自体、信じられませんでした。

川も真っ黒く濁っていたのですが、そこで泳いでいた子どもたちの笑顔が何とも印象的でした。

自然から出たゴミならいつか大地に帰るのでしょうが、ペットボトルやビニール袋、ジュースのパック等の石油製品は、ずっと消えることはありません。

本当は、ゴミは土に帰るという考えは正しいのかも知れません。ゴミを道へ捨てても大丈夫な生活のほうか、豊かだったのでしょか。

(秋山頼子/東京都八王子市・長房西保育園保育士)

「地球家族ネットワーク」へのお誘いとエピソードのお願い

保育は、世界中の人と仲よく生活できること（平和）を伝える役割があります。

そこで、国際交流や外国籍の子どもたちの保育について情報交換をしたい方は、「地球家族ネットワーク」に参加してみませんか？!

また、外国籍の子どもを受け入れて、心に残るエピソードがありましたら、ぜひお寄せください。

全私保連 保育国際交流運営委員会

TEL 03-3865-3880 / FAX 03-3865-3879

E-mail : ans@zenshihoren.or.jp